

2017年3月3日受信②

進行中の沈砂池。下流部と灌漑予定地、護岸線を示す。排水門Ⅱはクナール河へ28mの管水路で直接排出、緊急時の大量排水に備える。カチャラ村は現在80ヘクタールの寒村から、更に100ヘクタールを超える農地を手にする。(地図参照) 2017年3月1日



沈砂池以後の護岸と排水溝Ⅱを示す。同部の川幅は400～500mを確保し、洪水の溢水に備える。護岸堤防の天端は約10mを確保。表法に50mごとに石出し水制、洗掘に備える。遠くの山はスピングル山脈。2017年3月1日



沈砂池下流、排水路Ⅰ流域を示す。同排水路流域は、コーティ用水路の取水に伴って発生したもので、たびたび洪水進入路として沿岸村落を脅かした。不毛の湿地が形成されていたが、沈砂池の造成に伴って用水路の水量が調節できるようになった。湿地はたちまち耕作地化されつつあり、村落間の混乱を避けるため、コーティ分水路の湿地沿い約 950mを整備する。2017年3月1日



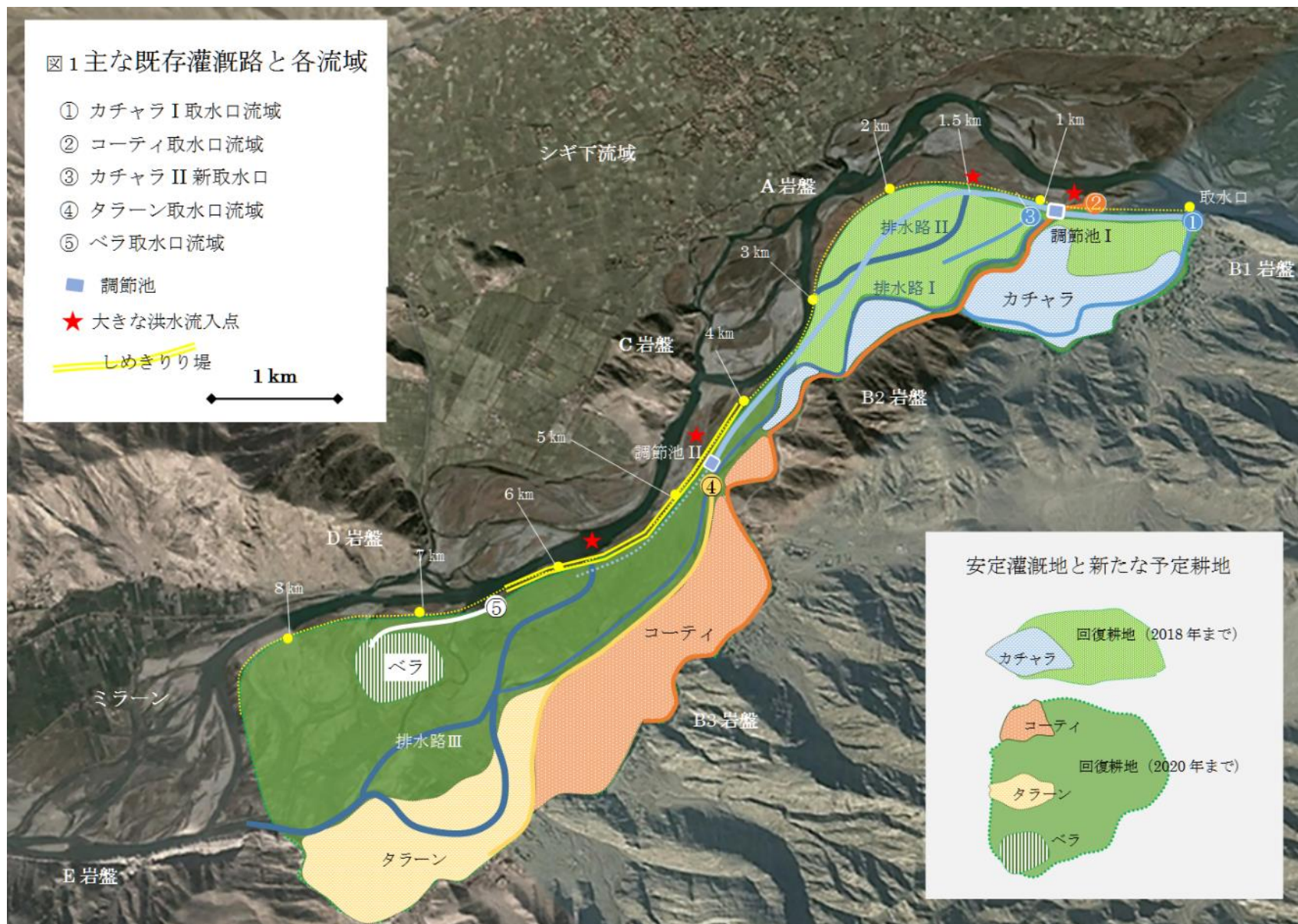
同コーティ分水路の整備。コーティ用水路は同地で最も歴史があつて距離も長く、約4~5kmを崖沿いに進んで村を潤す。問題になるのは湿地所有者がカチャラ村、水路所有者がコーティ村であることで、PMSが湿地沿い950mの分水路を作ること仲介が成立している。水と土地争いは時に致命的な対立を残す。湿地の耕地化既に始められている。どの帰還難民も食うために必死なのだ。2017年3月1日



クナール河へ直接注ぐ排水門Ⅱの管水路。内径 1.6×1.2m、長さ 28mは案外大きいが、排水路Ⅰ沿いの湿地帯所有が問題になった現在、救いの女神。灌漑の仕事は人間の欲望や対立との戦いだ。来週、水門を全開して試す。2017年3月2日



最も長いのはコーティ村の取水口で、延々5 km以上、大部分が岩を穿ち、岩盤沿いを這う本格的なものだ。しかし、取水口は例外なく洪水進入路でもあり、川沿い耕地の荒廃を許してきた。PMSの工事によって水量が倍増し、洪水の危険が遠のいたことは、大きな安全保障であった。新たな灌漑路は十分な調査によって慎重に進められる。



2017年度は、主にカチャラ村・コーティ村の灌漑が慎重に行われる。現在のところ、新灌漑地（復旧耕地）はカチャラ村に集中している。2010年の大出水を考慮し、川沿いの一部を遊水地化して備える予定。ただし、耕作だけは許し、樹林帯を厚く設ける。主幹水路は洪水通過の危険があるところを通過しない。

